

CASBEE 広島 2016年版
特別養護老人ホーム こころ

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.3	
Q1 室内環境					0.40		-	3.2	
1 音環境				2.5	0.15	2.7	1.00	2.5	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				1.8	0.40	2.4	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				1.0	0.60	1.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				3.3	0.35	3.2	1.00	3.3	
2.1 室温制御				3.3	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		各ゾーンで空調の個別制御ができ、室温を自由に調整できる。		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		地震時の一部破損が、全体の機能に影響しないよう配慮している。		5.0	0.30	5.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.0	1.00	3.0	
3.1 昼光利用				3.0	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		居室スペースの昼光率を高め、居住環境を向上を目指した。		3.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	1.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.7	0.25	3.7	1.00	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		24時間換気により、室内汚染空気を常時排出できるよう努めた。		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				2.5	0.30	3.3	0.38		
1 換気量		建築基準法上、定められた換気量を確保。		4.0	0.50	4.0	0.33		
2 自然換気性能		各室に窓を取り、自然空気を積極的に取り入れる設計としている。			-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御		敷地内に喫煙所を設けない計画としている。		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能					0.30		-	3.2	
1 機能性				3.7	0.40	4.6	1.00	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		収納物を整理しやすくするために、各収納に棚を設けている。			-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	4.0	0.40		
1 広さ感・景観		外部に中庭を設け、どこにいても庭を感じられる設計になっている。			-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		共同生活室の天井が高く、ゆとりを感じる生活ができるとしている。		4.0	1.00	4.0	0.50		
1.3 維持管理				4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		床はビニル床タイルとし、掃除のしやすい仕上げを選んでいる。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		各フロアごとに、掃除流しを設置している。		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30		-	3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		利用状況による。		3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				4.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.8	0.20		-		
1 空調・換気設備		空調設備の負荷容量を下げた運転が可能な計画になっている。		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		設備を充実させ、職員が入居者を把握しやすい計画とした。		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性		2.4	0.30	2.0	1.00	2.2
3.1 空間のゆとり		1.0	0.30	1.0	0.50	
1 階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	大半の建物が平屋で、周囲の街並みと溶け込む計画とした。	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	近隣住人も利用できる、地域交流スペースを設けている。	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱材を積極的に採用し、外気による熱負荷抑制に努めた。	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BE][BEIm] : 0.67	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価		-	-		-	
4.1 モニタリング		3.0	-		-	
4.2 運用管理体制		3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護		2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水		1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.7	0.60		-	2.7
2.1 材料使用量の削減		-	-		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.29		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.14		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	木材を積極的に利用し、建材の再資源化に努めている。	4.0	0.29		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.9	0.20		-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	ホルムアルデヒド発散材料を使用しない。	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		2.0	0.70		-	
1 消火剤		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	-		-	
3 冷媒		2.0	1.00		-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮	外気を積極的に取込み、設備機器の利用を抑えられる計画とした。	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1 騒音		3.0	1.00		-	
2 振動		-	-		-	
3 悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		1.0	-		-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	カーテン等の採用で、外部に漏れる光を極力抑えた計画とした。	5.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	